

自らの体験から感じ、考えた福祉 県福祉作文コンクール表彰式開催

去る一月二十三日、県社会福祉会館にて「第三十三回神奈川県福祉作文コンクール」(主催：本会、県共同募金会、後援：神奈川県、県および市町村教育委員会、NHK横浜放送局、テレビ神奈川、神奈川新聞社、日揮社会福祉財団)の表彰式を開催しました。

本年は県内の小・中学校四百五校から一万一千百三十三編の応募があり、地区審査会、県審査会を経て、優秀賞十六編、準優秀賞二十編、佳作二十編が選出されました。

いずれも自らの体験から感じ、考えたことが綴られた、素晴らしい作品ばかりでした。

本紙では、優秀賞の中から、相模原市立大沢小学校五年生の田所真奈さんの作文を紹介します。

(ともしび運動推進担当)



第33回神奈川県福祉作文コンクール表彰式
当日は、県知事賞受賞者2名による朗読がありました。写真は手話学校3年伊牟田愛希さん

優秀賞 神奈川県社会福祉協議会長賞

幸せな福祉社会

相模原市立大沢小学校 五年 田所 真奈

私のお姉ちゃんは、身体しよがいがい者の手帳と、りよう育手帳を持っています。重度のしよがいがいです。立つ事もむずかしいじようたいです。私の学校には、しえん学級のくすのき級というクラスがありますが、姉と一緒に通えませんが、そのため、養護学校から、週3回、先生が自宅に来てくれています。私のお姉ちゃんは、大変な手術を9回も行っていきます。今は、12歳小学校6年です。なにかあるたび、私たち家族はなみだをのみます。

近くのお店へ、お姉ちゃんと、お母さんと私で行きます。そして、姉の車イスをおして出かけます。でも、周りを歩いて行く人達がつめたい目で見ます。同じ人間なのにひどいです。他にも、車イスをおしていて段差が多く大変なのに、他の人はす通りだったり、歩行者せん用の道が、せまく、車道に車イスが出るようになり、大変危険だと思えます。世の中、物のバリアフリーは、たしかに増えてきました。でもどんなに物がととのついても、人の心のバリアフリーが進まなければ意味がないと、いつも母と話しています。

また、福祉施設が充実していません。もう少し増やしてもいいんじゃないかと思えます。どんなにお母さんが具合が悪くても、お母さんの代わりがいるわけではなく家族だけでは、限界です。世の中、たくさん税金がむだに使われているようです。そうであれば、福祉に使えないのでしょうか。そうすれば、ちよつとした時に、少しの時間、あずかってもらえる場所ができて安心でいいと思えます。

私は、幸せな社会をつくっていくために、みんなの助けが必要だと思えます。お年寄りや、身体の不自由な方たちが世の中には、たくさんいます。大変な時に、助けたり、「大丈夫ですか?」「何か手伝いましょうか?」などの声かけをするだけでも、大変な人は、うれしい言葉だと感じると思えます。

私の、しよるの夢は、医者になる事です。みんなの笑顔が見たいからです。助けて。そのために勉強や優しさを忘れずがんばります。これからの世の中が、私達をはじめ、お年寄りや身体の不自由な人達も、みんなが楽しく、安心・安全、幸せな生活を送っていききたいと思えます。私も、優しさを忘れずに、毎日を、大事に大事に生きていきたいと思えます。

地域密着型サービス外部評価結果の公表

本会地域密着型サービス外部評価事業として、昨年10月に訪問調査を実施した3事業所の評価結果を公表しました。

No.	事業所名	所在地
1	ハンズ新横浜	横浜市港北区
2	グループホーム 奏	川崎市幸区
3	小規模多機能型居宅介護 奏	川崎市幸区

- * No.3の事業所は、小規模多機能型居宅介護です。その他は、認知症高齢者グループホームです。
- * 本会ホームページ (<http://www.knsyk.jp>)、WAM-NET (<http://www.wam.go.jp>) 等で公表しています。(企画調整・情報提供担当)

平成21年度介護支援専門員実務研修 受講試験追加合格について

1月号 (No.698) でお知らせしました、標記試験につきまして、厚生労働大臣の登録を受け試験問題を作成している(財)社会福祉振興・試験センターにおいて、既に公表された正答の他に正答番号の追加を行うことが発表されました。これを受け神奈川県では、新たに243名の方が合格され、合格者数は計2,167名(合格率26.9%)となりました。

(介護支援専門員支援担当)